

## 民営化のメリット・デメリット及び公立保育園の役割について

### (1) 公立保育園の民営化におけるメリット・デメリット

	利用者（保護者）	行政（町）
メリット	<input type="checkbox"/> 保育サービスの充実 ・一時保育・休日保育などの実施 ・共働き世帯の増加、就労形態の多様化による保育ニーズの増加に対し、柔軟に応えることができる（保護者の選択肢が増える） ・民間のノウハウを取り込みながら、独自サービス等が期待できる	<input type="checkbox"/> 財政的な効果 ・公立保育園の運営費の効率化により生まれた財源を他の子育てに関する事業に充てることができる ・今後老朽化する施設（保育園）への対応の負担（整備費）が将来的に軽減できる
デメリット	<input type="checkbox"/> 環境の変化による子どもへの負担と保護者の不安 <input type="checkbox"/> ひとり親家庭等困難を抱える家庭や特別な支援が必要な児童に対する受け入れ体制の不安 <input type="checkbox"/> 過剰な保育サービスへの懸念 ・「子どもにとって」という観点からすると、必ずしも良い保育と一概に言えない。 ・表面的な満足度を上げることが、よい保育とは言えない	<input type="checkbox"/> 保育の質の低下の不安 ・同一小学校区内から公立がなくなる ・経営的観点から効率性や営利主義に進展する恐れがある <input type="checkbox"/> 少子化による撤退リスク ・安定的かつ継続的な保育の保証があると云えない <input type="checkbox"/> 長期的な視点における人材育成 ・職員の給与等処遇からベテラン保育士が不足する恐れがある

※ 民営化を推進するうえで、配慮すべきと思われる点 ⇒ デメリットの解消

- 子どもの視点に立った保育運営体制
  - ・保育の質の確保と継続性、サービスの向上
- 安定的かつ継続的な保育運営体制

## (2) 公立保育園の果たす役割

### ○基本的な考え方

保育園は、子どもが生涯にわたる人間形成にとって極めて重要な時期に、その生活時間を大半過ごす場であり、民営化を進めた場合であっても保育の実施義務・責任は町にある。

また、多くの課題を抱える子どもや家庭が増えているなか、保護者と接する機会が多くある保育園等が軸となりながら、支援が必要な家庭に対する施策をより一層充実させることが求められている。

については、公立や私立の各々の特徴を活かし、町の保育の質を向上させるために、公立保育園としての行政機関が果たすべき役割を明確化する。

#### ① 町全体の保育の質の向上

私立保育園との連携による事業調整、保育の質にこだわり、公立・私立問わず全保育士の研修機能

#### ② 他の行政機関等との連携による子育て・保育施策の充実

保健センター、子育て支援センター、小学校などと密に連携し、就学前保育のみならず子育て期全般を見据えた取り組み

#### ③ 配慮を必要とする児童（発達障害、アレルギー等）への対応

早期発見と的確な対応ができるよう個々のスキルアップ、関係機関とつなぐ総合的な役割

#### ④ 保育園定員数の調整等

人口減少社会を見据え、就労形態の多様化に対する保育ニーズの変化に対応できるよう、定員数の調整機能